

**「まちづくりセンター10周年企画」
「まちセン御三家に聞きました！」**

函館とともに歩んできた函館市地域交流まちづくりセンター。2007年4月開館以来、多くの方に支えられおかげさまで10周年を迎えることができました。

10周年を記念する企画として、函館の市民活動とまちづくりセンターにスポットをあて、3編構成にて、みなさんにご案内します。10年を振り返る過去編、函館の今、現在編(次号)、これからの函館、未来編(次々号)を予定しています。



開館以来、10年まちづくりセンターを支えてきたスタッフ3人(丸藤競(センター長・写真中央)、横内輝美(左)、

澤田石久巳(右)に、聞きました。前号の表紙で、10周年の10の数字をユーモアに体で表現してくれたまちセン御三家。今回は、シリアスモード？

「まちセン御三家のうなごり」

澤田石 私なんかまさしくこの仕事が出来なくて、センター長のところに強引にいつて、とにかく働かせてくれと、あいつにいました。センター長の動きも知っていました。自分の地元こんなものができる、黙ってられないと思って、動き始めた。待ちに待った施設。まちづくりをするという部分の中に、私自身ずつと消防・防災をやってきました。その経験を活かしながら、楽しいまちづくりの根底、安心・安全ということをね。底辺の部分でもって、少し役にたてるかなと。

横内 僕はもう40年も前から市民運動というのに関わっていて、各団体のところで歌を歌いながら、20、30の団体運営を手伝っていた。その人たちや知り合いに、使いやすさなんか話して、ここを使ってもらえるように話してきました。

「まちセンの船出！」

丸藤 函館にまちづくりセンターができた場合、どんな雰囲気になればいいのか、どうすれば成功するかということを考えていくため、オープン3年くらい前から教育大学の学生さん等と定期的に集まって議論を重ねてきました。全国の事例なども参考にしました。

実際にNPOで活動している方々をはじめ色々な人とお会いして、意見も聞きしました。実は、そこにけっこう時間をかけたんですよ。で、出てきた結論が、がんばりがめにするのではなく、自由で居心地が良いことが大切だということです。今も、私はあえて細かなことは言わないようにしています。何も考えていないような感じを持つ方もいるかもしれませんが、実は長い時間議論したことで導き出されたものです。今でも、この形が一番いいだろうなと思っています。

「まちづくりは、心づくりに」

丸藤 そのためにも、できているかどうかは分かりませんが、スタッフに対してもなるべく楽しく働けるような雰囲気にしたなどは考えています。あんまり細かなことを言わない。重箱の隅をつつくような感じでギスギス言われるとモチベーションが下がりますよね。何かまずかったという時は、実は本人が一番分かっていると思うんです。

それよりも、楽しく仕事できている方が、自分でも気が付かないうちに熱心に仕事に取り組みむようになるし、自らが気がつき直していきけるようになる。結果、仕事の効率も効果もよくなっていく。というのが理想ですね。最初からそう思うて運営してきました。理想論かもしれないし難しいこともあるけど、スタッフを信頼してやっています。

澤田石 人ですから難しいですよ。

丸藤 人から言われてシブシブやることって、育ちがないように思うんです。逆に、自分から気がつくって本物になる。時間はかかるけど、自分から気がついてもらいたいというふうには思っています。

澤田石 ある研修会で「それ手だすな、待てよ」って、センター長に声かけられて、なるほど、これ俺やってしまったら、この人できないもんがあつて。

横内 自分で見つけなきゃダメなんだよね。誰かに言われてからなんじゃなく。

「10年前の自分にひと言」

- ・楽しいと思うことをやるとけば、大丈夫だよ！(丸藤)
 - ・いつも心に歌を！(横内)
 - ・志は同じだ！(澤田石)
- 澤田石さんにセンター長よりツッコミが入りました。「過去の自分にちよつとしゃべりすぎないほうがいいよ」とかつてないの？

次号では、現在編を掲載予定です。お楽しみに。

「あとかぎ」

10周年ということで何か形に残したいと思ひ、まちセン御三家に話を聞きました。開館前の動向、当時の思いを聞け、また、開館から10年経ち、やり方や形はかわれども、志はなにも変わっていないという言葉に活動の原動力を感じました。

(聞き手 まちセン5年目 谷口真貴)